

化・面（か・めん）

まわりつく匂い

剥がすことのできない仮面
を、

つけたまま

雑踏に耳を塞ぎ目を覆う

夕暮のなか

疲れた体を家路に向かわせる時

くすんだ瞳が やがて

妖しくなる

顔を脱ぐ時間だ

一日中剥がすことのできなかった仮面を
剥がす時間だ

痛みに耐え

ゆがんだ

性格まで歪んでしまったこの顔を
再生する時間だ

汗臭く蒸れきった仮面を剥がし

そのあとを

薄く

厚く 丹念に

化粧

を

して

別の自分を作りだす

生まれ変わる あるいは

描き替える

本当の自分の素顔など忘れて

いや、
本当の素顔など もう、
どこにも無いのだから
自在に
無限に
描き足してゆく
作り出してゆく
そのことだけに情熱を注ぎ
そのことだけを夢見て
けれど

鏡の中の幼な児は
息苦しく
咽喉元まで覆うそ知らぬ顔に
狂気している